

# 学校健診データから将来の健康を考える

井出和希<sup>1,2</sup>、吉田都美<sup>1</sup>、尾板靖子<sup>3</sup>、川上浩司<sup>1,2</sup>

<sup>1</sup>京都大学学際融合教育研究推進センター 政策のための科学ユニット, <sup>2</sup>京都大学 大学院医学研究科 薬剤疫学分野,

<sup>3</sup>一般社団法人 健康・医療・教育情報評価推進機構



公共圏における  
科学技術・教育研究拠点

## 背景

### 学校健診

- 小学校1年生から中学校3年生までの9年間を通して行なわれ、児童・生徒の健康状態の把握に役立てられている
- 一部は「学校保健統計調査」として集約→文部科学省から公表  
大部分は児童・生徒の卒後5年間保管→破棄

学校健診情報の集約や自治体・保護者に対する情報還元は行なわれていなかった



健康管理  
健康意識の向上  
に有用?

学校健診情報

個人・自治体への  
情報還元

単一の自治体を対象とした探索的調査で有用性を示唆<sup>1</sup>  
複数自治体を対象にすることで一般化可能性が高まる

1. 井出和希, 吉田都美, 尾板靖子, 川上浩司. 学校健診データの利活用に対する認識と理解: 保護者を対象としたアンケート調査. 学校保健研究. 2017, 印刷中.

## 目的

連携する7自治体を対象に  
学校健診レポートの還元が生徒・保護者に対し有用かを調査し、併せて、データの利活用への理解を明らかにすること

## 方法

調査期間: 2017年1月12日~2017年3月31日  
対象: 連携自治体に属する中学3年生の保護者

— 7自治体・49中学校の協力 —

- 岩手県一関市
  - 山口県防府市
  - 高知県高岡郡津野町
  - 静岡県湖西市
  - 愛媛県四国中央市
  - 滋賀県湖南市
  - 新潟県南魚沼市
- 自治体、教育委員会、学校、保護者の多くの皆様にご協力いただきました

図1. 調査協力自治体

Plot: JMP Pro 12.2.0. Geographic locations: CSV Geocoding Service (Center for Spatial Information Science, The University of Tokyo).



4081名の生徒の保護者\*  
健診レポート+調査票を配布  
\*例数は実施可能性に基づき設定

回答・回収:  
情報の有用性  
利活用への理解

回答のデータセット化

信頼性担保のため  
トリプルチェック

記述的解析

無回答を含め、  
回答数・割合(%)を算出

図2. 学校健診情報還元資料

解析用ソフトウェア: SAS ver. 9.4 for Windows (SAS Institute Inc.)

本研究は、調査への参加に同意した保護者を対象に行なった。調査は、世界医師会「ヘルシンキ宣言」(2013年フォルタレザ改訂)並びに厚生労働省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成29年2月28日一部改正)に則り遂行した。併せて、日本学校保健学会倫理綱領を遵守した。

## 結果

4081名の保護者のうち**2747名が回答**(回答率 67.3%)

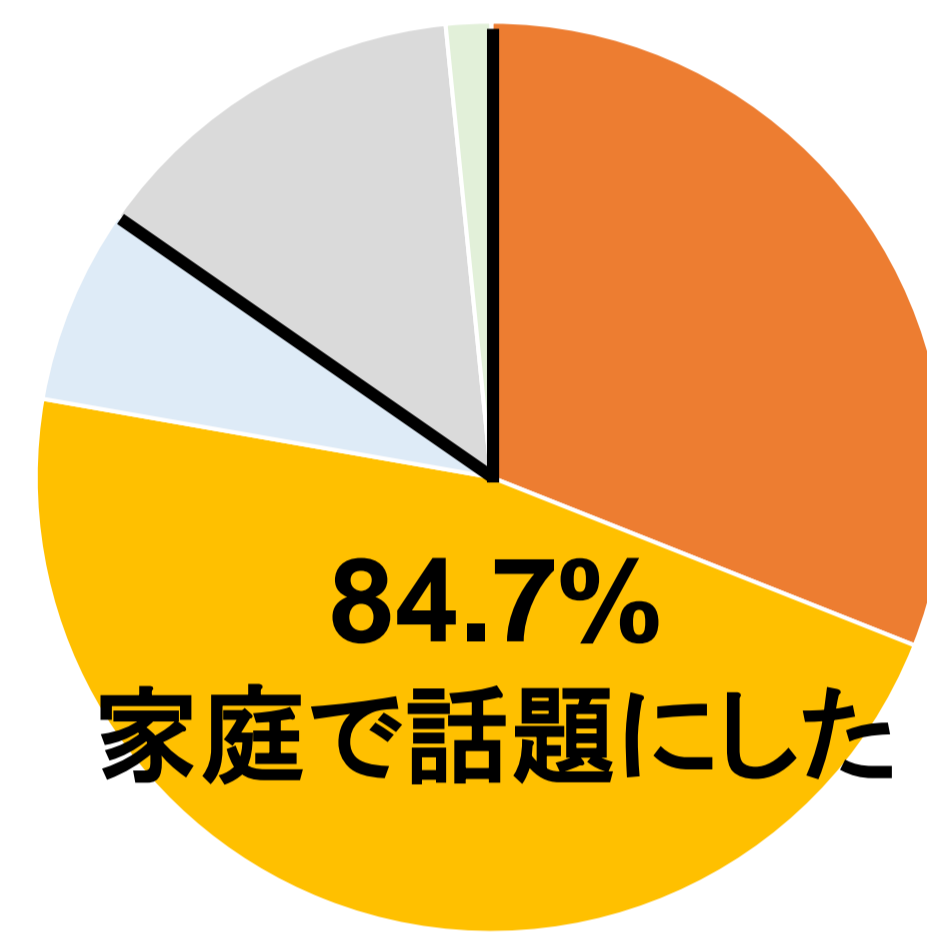
表1. 回答者背景

保護者の年代		
	父, N(%)	母, N(%)
~30代	251 (9.1)	446 (16.2)
<b>40代</b>	<b>1518 (55.3)</b>	<b>1785 (65.0)</b>
50代	503 (18.3)	288 (10.5)
60代~	62 (2.3)	11 (0.4)
無回答	413 (15.0)	217 (7.9)

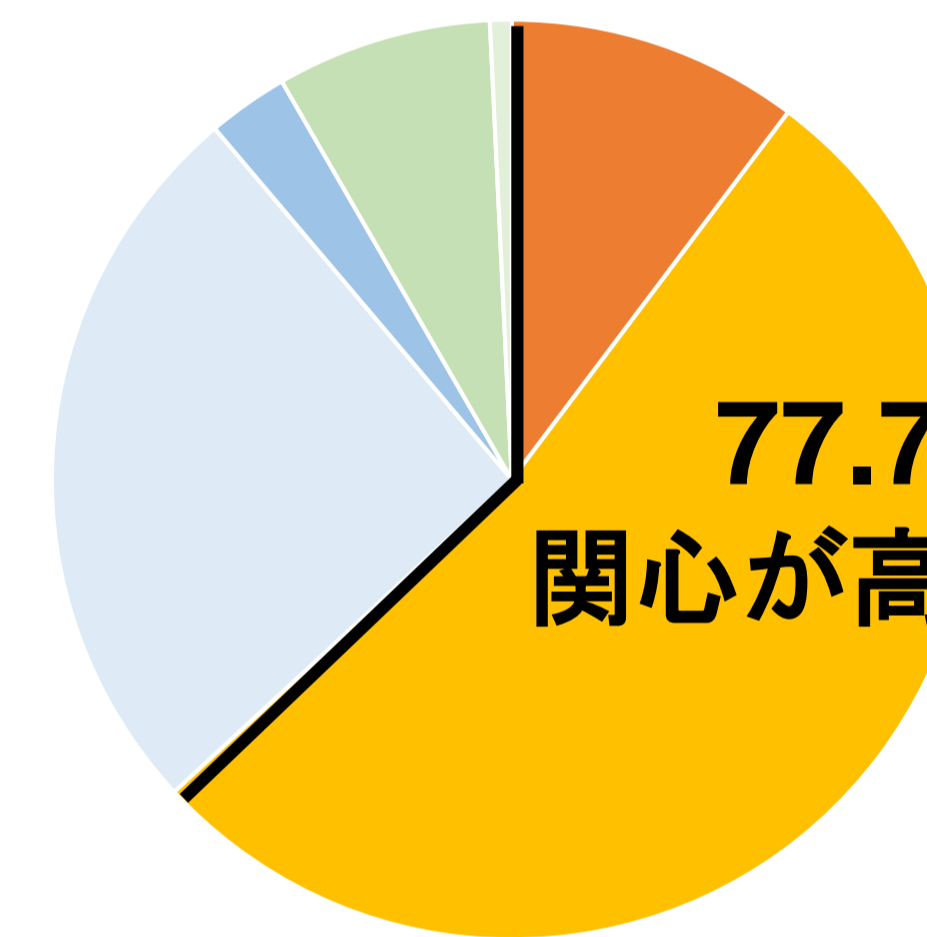
保護者の健康診断受診頻度		
	父, N(%)	母, N(%)
<b>毎年</b>	<b>2027 (73.8)</b>	<b>1766 (64.3)</b>
2, 3年に1度	159 (5.8)	428 (15.6)
3年以上受診していない	180 (6.6)	445 (16.2)
無回答	381 (13.9)	108 (3.9)

健診結果をどのように話題にしたか



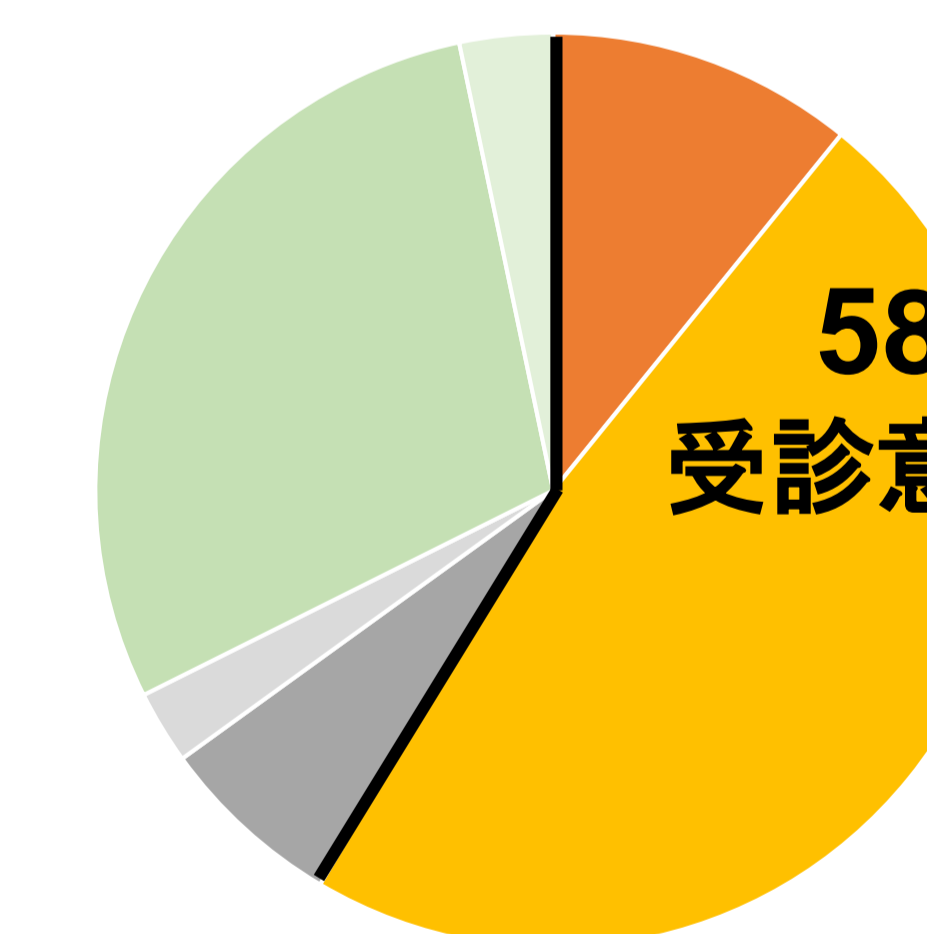
選択肢	N(%)
家族の集まりで	852 (31.0)
お子さんとのみ	1284 (46.7)
保護者の間でのみ	191 (7.0)
話題にしなかった	376 (13.7)
無回答	44 (1.6)

子供の健康状態に対する関心



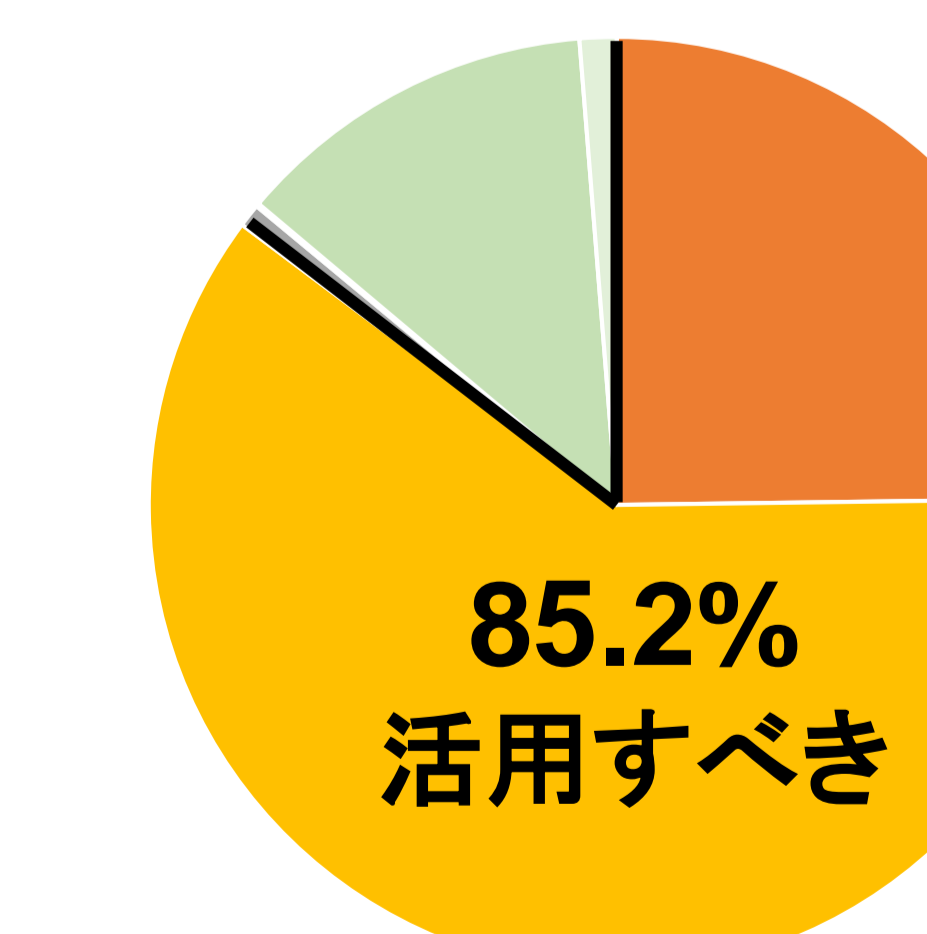
選択肢	N(%)
大いに高まった	282 (10.3)
高まった	1452 (52.9)
変わらない	706 (25.7)
全く変わらない	78 (2.8)
どちらとも言えない	208 (7.6)
無回答	21 (0.8)

保護者は健診を受診したいと思うようになったか



選択肢	N(%)
とてもなった	184 (10.8)
なった	810 (47.7)
ならない	111 (6.5)
全くならない	44 (2.6)
どちらとも言えない	494 (29.1)
無回答	56 (2.0)

学校健診情報を活用すべきか



選択肢	N(%)
大いに活用すべき	681 (24.8)
活用すべき	1660 (60.4)
活用すべきでない	22 (0.8)
絶対にすべきでない	3 (0.1)
どちらとも言えない	346 (12.6)
無回答	35 (1.3)

83.7%は母子保健や他の医療の記録と繋げた活用にも前向き  
50.9%はスマートフォン等のアプリを介した情報提供も利用したい

## 考察

- ❖ 75%以上の保護者の子供の健康に対する関心が向上し、保護者の健診受診意欲に対しても影響を及ぼすことを示唆され、学校健診レポートは子供・保護者の健康向上に有用であると考えられた
- ❖ 情報の活用に対し85%以上が前向きである一方で、12.6%は「どちらとも言えない」と回答、対話や情報共有の場が必要であると考えられた